

手法選定理由書

～なぜ「自転車＋クイズ」形式を採用したのか～（予算：65万円）

1. はじめに

本事業では、「地域の魅力・課題を体感的に学ぶことで、子どもたちに当事者意識を育み、主体性・社会性・健康意識を育てること」を目的としています。この目的を最大限達成するための手法として、「**自転車によるサーキット周回**」×「**新潟に関するクイズと謎解き**」という形式を採用しました。

その選定に至った理由を、以下の通り、他の手法との比較を交えながら明らかにします。

2. 比較検討した他の手法と課題点（コスト込み）

手法案	内容概要	概算費用（30名×2部構成想定）	主な課題点
(A) 室内型講義＋グループワーク	地域の専門家を呼び、講義とグループワークを実施	約55～80万円（講師謝金、会場費、印刷費、進行人件費）	受動的で体験性に乏しい。記憶定着・楽しさ・集客効果に課題。
(B) バスによる地域周遊型フィールドワーク	各地を見学し、地域に関する調査やクイズ	約90～120万円（バス2台チャーター、保険、現地調整費等）	高コスト、時間制約、天候や道路事情に左右されやすい。安全管理も複雑。
(C) 体育館型レク＋資料展示	体育館内で謎解き風レクと地域紹介ブース	約60～75万円（会場費、展示制作費、スタッフ、保険）	動的活動や地域リアル体験に弱く、印象が薄くなりがち。資料中心で受動的。

3. 本手法（自転車＋クイズ）の優位性【予算65万円内での実現性】

評価観点	本手法の利点
① 学習効果（地域理解）	クイズ・謎解きを通じて、自ら調べ・考え・答える体験を得る構成。全LOMから出題されることで、広域的な地域知識を習得可能。
② 主体性・当事者意識	競技型要素（タイム制・謎解き）により、「自分ごと」として地域課題に取り組むモチベーションが自然に生まれる。
③ 身体活動・健康促進	自転車という手段により、学びと運動の融合を実現。生活習慣改善の一環としても有効。
④ 集客効果・ワクワク感	「間瀬サーキット」「謎解き」「自転車」といった非日常性の高い要素が揃い、参加者に強い印象とリピート意欲を与える。
⑤ コスト効率・再現性	<ul style="list-style-type: none"><li>自転車はサーキットと連携し安全性を確保した上で一括レンタル</li><li>謎は市販本を使用し制作費を圧縮</li><li>メイン会場内で完結するため交通費・警備費がほぼ不要</li><li>65万円以内で完結可能（以下に内訳例）</li></ul>